学長の業績評価（令和５年度）

国立大学法人富山大学学長選考・監察会議は、「国立大学法人富山大学学長の業績評価に関する申合せ」等を踏まえ、以下の考え方を基本として、令和５年度学長の業績評価を実施したのでここに公表する。

１．学長の業績評価は、大学の使命達成とさらなる発展に向けて、学長の適切な業務遂行に資するために実施する。

２．評価の対象は、大学全体の実績に対する「全体評価」及び学長の「個人評価」とし、以下の４項目について実施する。

（１）中期目標期間の大学の業務実績を通した評価
（２）大学の機能強化の取組を通した評価
（３）大学改革等に向けた取組に係る評価
（４）大学ガバナンスとリーダーシップに係る評価

３．「全体評価」である（１）については、富山大学の中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和４年度自己点検・評価報告書等を活用し、（２）については、令和６年度国立大学法人運営費交付金の配分に係る評価をもって、本年度の評価とする。
　また、「個人評価」である（３）、（４）については、前年度を踏まえた令和５年度の評価とする。

令和６年３月２９日
国立大学法人富山大学学長選考・監察会議

令和５年度学長の業績評価

（１）中期目標期間の大学の業務実績を通した評価

【評価方法】

法人の中期目標期間に掲げる業務運営や財務内容等に関する目標計画の進捗に対し、大学運営の責任者である学長をもって評価する。評価は、大学の自己点検・評価による「中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和４年度自己点検・評価」を踏まえた評価とする。

【概要】

〇項目別評価

１）教育研究の質の向上に関する目標

（１）社会との共創に関する目標

地域の産業・文化の発展への貢献、産学官連携活動の推進など、中期計画の達成に向けて取組を進めている。特に、共同研究・受託研究については、分野ごとに分類した研究シーズ集の作成や、企業ニーズに合わせた研究成果の紹介等により、受入額の増につながっている。また、特許出願数が大幅に増加した。以上から、「順調」と評価する。

（２）教育に関する目標

社会ニーズに対応した教育研究組織の改編・整備、課題設定・解決力を身に付けさせる枠組みの整備、教養教育の推進、社会の多様な分野で活躍できる博士課程学生の育成、数理データサイエンス AI 教育、リカレント教育の質の向上など、中期計画の達成に向けて取組を進めている。特に、教養教育の推進では、習熟度別クラス編成の導入等により TOEIC-IP の平均得点の上昇が見られるなど成果を上げている。以上から、「順調」と評価する。

なお、異分野融合による共著論文数及びその共著論文数の全論文数（大学院博士課程）に占める割合については、ともに令和３年度実績より減少しており、背景要因の詳しい分析とともに、今後の論文数の増加につなげていただきたい。

（３）研究に関する目標

社会の課題解決・イノベーションに寄与する研究の推進、未病研究や特定臨床研究を含む社会実装を目指した東西医薬学融合研究の推進など、中期計画の達成に向けて取組を進めている。特に、富山大学と熊本大学で編成する先進軽金属材料国際研究機構（ILM）が、共同利用・共同研究拠点として公募事業を開始したこと等により、共同研究の件数、論文投稿数の増加につながっていることが評価される。以上から、「順調」と評価する。

また、各学系における若手教員比率向上に向けた策を講じており、改善傾向である。各学系と良好なコミュニケーションをとりつつ、引き続き若手教員比率向上に向けて取組んでいただきたい。

（４）その他重要事項に関する目標

地域の医療連携と高度医療の強化、医療人材の育成、医師主導治験の強化など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、「順調」と評価する。

２）業務運営の改善及び効率化に関する目標

学長ガバナンスの強靭化に向けた体制整備、内部統制システムの継続的な改善、設備による教育研究支援、施設マネジメントの推進など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、「順調」と評価する。

３）財務内容の改善に関する目標

財源の多元化・安定的な財務基盤の確立、学内資源配分の最適化、附属病院の経営基盤の確保など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、「順調」と評価する。

４）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

エビデンスベースの法人経営、ステークホルダーへの情報発信と定期的な対話など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、「順調」と評価する。

５）その他業務運営に関する重要事項

効果的・効率的な業務の実施、デジタルキャンパスを推進する上での情報セキュリティ対策の実施など、中期計画の達成に向けて取組を進めており、「順調」と評価する。

【評価】

大学の自己点検・評価による「中期目標・中期計画の進捗状況に係る令和４年度自己点検・評価」を踏まえ、「順調」と評価する。

特に、学長のリーダーシップの下、富山大学が強みとしている重点研究分野・技術（カーボンニュートラル、ヘルスケア・創薬、軽金属、データサイエンス、文化財保護等）を中心に予算の重点配分による支援を行った結果、地域の中核産業の課題解決に資する事業に積極的に取り組んでいることが評価され、内閣府の令和４年度「地域中核大学イノベーション創出環境強化事業」の採択につながったと思われる。

今後も、各計画・指標等の達成状況の自己点検・評価に継続して取り組んでいただきたい。

（２）大学の機能強化の取組を通した評価

【評価方法】

大学の機能強化に向けた取組に対し、大学運営の責任者である学長をもって評価する。評価は、文部科学省による令和６年度国立大学法人運営費交付金に係る「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の結果を踏まえた評価とする。

○「成果を中心とする実績状況に基づく配分」について

国立大学及び大学共同利用機関におけるマネジメント改革の推進や、教育・研究の更なる質の向上を図るために導入された、「成果を中心とする実績状況に基づく配分」による資源配分。

配分は、その規模や組織体制の観点から分類されたグループ内の順位による配分率に基づき行われる。（配分率　125％～75％）

本学は、グループ①[主として、地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学のうち、附属病院を有する国立大学：28 大学]に分類されている。

【概要】

○本学の評価結果

総配分額　1,031,201 千円（配分基礎額　1,050,641 千円　差額▲19,440 千円（▲1.9％））

卒業・修了者の進学・就職の状況

・学士課程

偏差値 55.344、配分率 120％（配分基礎額 17,808 千円、配分額 21,370 千円）、順位４位

・修士課程、博士課程（前期）、専門職学位課程

偏差値 54.238、配分率 100％（配分基礎額 23,744 千円、配分額 23,744 千円）、順位 14 位

・博士課程（後期）、医歯学、薬学課程

偏差値 47.214、配分率 80％（配分基礎額 29,680 千円、配分額 23,744 千円）、順位 24 位

博士号授与率

偏差値 51.341、配分率 115％（配分基礎額 71,230 千円、配分額 81,915 千円）、順位８位

大学教育改革に向けた取組の実施状況

26 点/26 点中　配分率 125％（配分基礎額 59,359 千円、配分額 74,199 千円）、順位１位

若手研究者比率

偏差値 44.268、配分率 80％（配分基礎額 136,524 千円、配分額 109,220 千円）、順位 24 位

新規採用者に占める若手研究者比率

偏差値 42.712、配分率 80％（配分基礎額 47,487 千円、配分額 37,990 千円）、順位 24 位

常勤教員当たり研究業績数

偏差値 48.314、配分率 115％（配分基礎額 59,359 千円、配分額 68,263 千円）、順位７位

常勤教員当たり研究業績の伸び率

偏差値 49.656、配分率 95％（配分基礎額 29,680 千円、配分額 28,196 千円）、順位 15 位

常勤教員当たり研究業績の伸び幅

偏差値 49.470、配分率 95％（配分基礎額 29,680 千円、配分額 28,196 千円）、順位 15 位

常勤教員当たり科研費獲得件数・獲得額

偏差値 45.903、配分率 105％（配分基礎額 59,359 千円、配分額 62,327 千円）、順位 12 位

常勤教員当たり科研費獲得件数・獲得額の伸び率

偏差値 62.350、配分率 120％（配分基礎額 29,680 千円、配分額 35,616 千円）、順位４位

常勤教員当たり科研費獲得件数・獲得額の伸び幅
　偏差値 61.660、配分率 120%（配分基礎額 29,680 千円、配分額 35,616 千円）、順位４位
常勤教員当たり受託・共同研究受入額
　偏差値 44.273、配分率 80%（配分基礎額 59,359 千円、配分額 47,488 千円）、順位 24 位
常勤教員当たり受託・共同研究受入額の伸び率
　偏差値 45.942、配分率 85%（配分基礎額 29,680 千円、配分額 25,228 千円）、順位 20 位
常勤教員当たり受託・共同研究受入額の伸び幅
　偏差値 44.474、配分率 85%（配分基礎額 29,680 千円、配分額 25,228 千円）、順位 21 位
人事給与マネジメント改革の状況
　評点 6.4、配分率 115%（配分基礎額 47,487 千円、配分額 54,611 千円）、順位８位
会計マネジメント等改革状況
　評点 7.0、配分率 120%（配分基礎額 41,551 千円、配分額 49,862 千円）、順位５位
ダイバーシティ環境醸成の状況
　偏差値 47.630、配分率 85%（配分基礎額 41,551 千円、配分額 35,319 千円）、順位 22 位
寄附金等の経営資金獲得実績
　常勤教員当たり獲得実績額 1,453,377 円、配分率 80%（配分基礎額 89,038 千円、
　配分額 71,231 千円）、順位 23 位
寄附金等の経営資金獲得実績の伸び率
　偏差値 50.298、配分率 100%（配分基礎額 44,519 千円、配分額 44,519 千円）、順位 13 位
寄附金等の経営資金獲得実績の伸び幅
　偏差値 48.921、配分率 100%（配分基礎額 44,519 千円、配分額 44,519 千円）、順位 14 位

【評価】

大学の機能強化の取組を通した評価は概ね良好であり、中でも博士号授与率、大学教育改革に向けた取組、人事給与マネジメント改革状況及び会計マネジメント等改革状況についての結果は順調である。特に大学教育改革に向けた取組については、前年度に引き続き順位は１位と好成績であり、全学的に実施している教育成果のレーダチャートやＧＰＡ分布内での学生本人の位置の可視化、教育プログラム修了証の発行が高評価に繋がっていると考えられる。

また、常勤教員当たりの研究費獲得額や研究業績数が比較的高い評価となっているのに対して、常勤教員における若手研究者比率やダイバーシティ指標については低い評価となっている。これら指標の関連性も踏まえ、若手研究者や女性教員比率の増加に向け、引き続き注力願いたい。

（３）大学改革等に向けた取組に係る評価

【評価方法】

学長ビジョン「Saito Vision 2023」（令和５年７月 25 日策定）が、本学に求められている改革を適切に捉えていると判断し、教育・研究・社会貢献・大学運営に対する「Action Plan」を基本に、大学改革等に向けた取組を評価する。

【概要】

○教育

高度デジタルエキスパート人材の育成では、「令和５年度大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）」に採択され、富山高等専門学校とのカリキュラム開発など様々な連携を通じた取組により、高度情報専門人材の育成、同分野の活性化に貢献していくことを目指している。

大学院教育では、令和４年度に設置した大学院修士課程からの接続となるよう医学薬学教育部、理工学教育部の各専攻を１専攻化し、総合医薬学研究科総合医薬学専攻、理工学研究科理工学専攻に博士課程/博士後期課程の令和６年４月設置に向け準備を行うなど大学院教育の充実にも積極的に取り組まれた。

○研究

「産学連携推進事業費補助金（地域の中核大学の産学融合拠点の整備）」事業等により、令和５年９月、高岡キャンパス内にアルミニウムリサイクル及び資源循環型社会モデルの拠点となる軽金属材料共同研究棟を建設し、更なる共同研究の推進に取り組んでいる。

また、工学部に設置されていたカーボンニュートラル物質変換研究センターを発展的に改組し、全学体制によるカーボンニュートラル産業創生研究センターを令和６年２月に設置し、研究成果の社会実装、グリーン人材の育成に取り組んでいる。

○社会貢献

先進アルミニウム国際研究センターを中心に地域企業、地方自治体等と連携し、アルミニウムリサイクルを始めとする資源循環による市民ライフスタイル変革や産業のイノベーションを通じた地域活性化を目指す取組を進めている。また、富山県・富山市と連携した「とやまデータサイエンス推進連絡協議会」において、学校教育推進、社会人教育推進、産学官連携事業推進の観点から地域へのデータサイエンス・ＤＸ教育推進に積極的に取り組まれた。

さらに、富山県内医療の「最後の砦」の役割を果たすため、附属病院において、病院全体で救急を支援する救急医療体制の強化を図っている。

○大学運営

国立大学法人におけるマネジメント改革の一環として、学長ガバナンスの強靭化に向けた体制整備、財源の多元化・安定的な財務基盤の確立、カーボンニュートラルの実現に向けた取組の推進等に取り組まれた。また、大学戦略支援室において、第４期中期計画の評価指標（KPI）の評価に資する「自己点検データ集」を作成、令和５年度以降毎年度、KPI の達成状況に関する分析を行うなどエビデンスベースの法人経営に取り組んでいる。

学長の大学運営に関するビジョンとして策定した Saito Visio 2023 及び Action Plan の公表にあたっては、３キャンパスで説明会を開催し、具体的な内容について教職員に向けて直接説明する機会を設け、内容の共有を図った。

【評価】

VUCA（Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguity）の時代といわれる。将来の予測が困難な激動の時代において、大学には変化に対応した革新が求められる。学長ビジョン「Saito Vision 2023」は、本学の特性を明確に捉え、１期目の任期中に解決されなかった諸課題について引き続き真摯な姿勢で着実に改善を図り、２期目の運営方針を明確に示していると判断できる。また、ビジョンを具体化する「Action Plan」は具体性・戦略性があり、取組の成果は高く評価される。

（４）大学ガバナンスとリーダーシップに係る評価

【評価方法】

富山大学の使命は、地域と世界に向かって開かれた大学として、人文社会科学や医薬理工学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献することである。学長は、その使命を果たすために大学法人を統治し、リーダーシップを発揮しているかどうかを評価する。

【概要】

○ガバナンス体制の構築

学長は、国立大学法人法、国立大学法人ガバナンス・コード等を踏まえ、理事、副学長、学部等の部局長、経営協議会外部委員等を選任・配置し、自らの意思決定や、業務執行をサポートする体制を整備している。各理事は、学長の運営方針に基づき必要な事項等に対する検討を深め、学長の迅速・的確な意思決定を支えている。また、第４期中期目標に「学長ガバナンスの強靭化に向けた体制整備」を掲げ、この目標を達成するために「学長ガバナンスの強靭化を図るため、学長の大学経営に関する補佐体制を整備する。」ことを計画し、令和５年度は10名の外部有識者を学長特別補佐、学長特命補佐に登用し、専門的知見に基づく指導・助言により法人経営力の強化に貢献した。

○ガバナンスの発揮

学長は、大学法人としての経営の透明性、情報の開示、法律・大学規則・社会規範等に係るコンプライアンス遵守に努めている。さらに、“社会のための大学”として、国内外の合意や社会通念に率先的に取り組むことで経営機能を高め、大学法人としてのガバナンスを発揮している。

○リーダーシップの発揮

学長は、今年度２期目を迎えるにあたり「Saito Vision 2023」を新たに策定し、公表している。これにより、１期目に解決されなかった諸課題を着実に改善するとともに富山大学の強みとなる教育研究の分野を明確化し、具体的な取組計画を学内外に示した上で取組を実施している。

学長はスローガンに「“みんなで創ろう！”おもしろい大学」を掲げ、教職員、学生、その他大学に関係するすべての人とともに良い大学を作り上げたいという思いを込めている。教育においては、超スマート社会「Society5.0」に対応した高度デジタルエキスパート人材、グローバル人材の育成を掲げ、文理融合教育、学部横断型教育、英語教育の推進を柱としている。研究においては、社会に革新を与える研究知の発信を掲げ、個々の研究を尊重しつつも、広範な専門領域に対応するため部局を跨いだ研究体制を構築するとしている。社会貢献においては、「地（知）を楽しみ、知（地）を活かす」、「地域産業の発展とウェルビーイングの向上に貢献する」を謳い、産学官金連携による地域活性化の推進、地域住民の健康を守るための医療連携と高度医療の強化等を行うとしている。

【評価】

学長は本学の使命を実現すべく“おもしろい大学”をスローガンとする「Saito Vision 2023」を策定し、学生を含む大学構成員の一体感を引き出すなど、リーダーシップをもって、社会の率先に向けて様々な大学ガバナンスを発揮しており、評価される。

なお、令和４年度入学者選抜において発生したミスについては、学長のリーダーシップの下、入試改革担当副学長の新設や検証を行うための再発防止検討委員会の設置など再発体制の強化等を図り、再発防止に向け取り組んでいる。今後も引き続き、組織的な取組を着実に実施することが望まれる。